

令和7年6月24日

日立理科クラブ通信

No. 247



日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立塙山小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、塙山小学校（高橋裕子校長）の木名瀬 敦（きなせ あつし）さんです。

木名瀬さんは、日立市の出身です。子どもの頃は、星に興味を持っていて、星座を見つけるのを楽しみにしていました。自宅から天の川もよく見ていたそうです。また、お父さんに手ほどきを受けながら、竹を利用して凧（たこ）や竹とんぼ、竹鉄砲などをつくって遊んだそうです。今でも、理科室にはたくさんの竹でつくったおもちゃがあり、休み時間などに児童と遊んでいます。

理科クラブに入る前は、日立製作所で原子力発電に関する科学試験や分析等の仕事をしていました。また、二酸化炭素を地中の石炭層に吸着するプロジェクトに参加したこともあるそうです。

理科室のおじさんは、塙山小学校が5年目になります。学校では、「理科おじさん」と呼ばれ、児童にとっても親しまれています。いつもは理科室で、実験の準備や片付けなどを行っています。実験台を広く使えるように工夫したり、実験器具等をすぐに取り出せるように整理整頓したりもしています。

木名瀬さんは、教材を工夫するのが得意です。先生方の要望に応じて、筋肉模型や骨格模型をつくったり、紫キャベツの代わりにブルーベリーで色素をつくったりすることもあります。

家の近くからプランクトンがいそうな水を持ってきて、児童に観察させたり、科学クラブで児童と一緒にホバークラフトを作成して乗ってみたい、児童が驚いたり、目を輝かせたりするのを見るときに、やりがいを感じます。

ユニークだったのは、先生方との連絡にグループLINEをつかっていることです。メモのやりとりよりも確実に伝わって便利だそうです。また、直接関係ある学年だけではなく、他の学年の先生にとっても参考になっています。特に、若い先生には気付きが多いようです。

児童に伝えたいのは、「わからないことに疑問を持ち、それを自分で考えたり、調べたりしてほしいということ。失敗をおそれずにいろいろなこと興味をもってほしいということ。そのためにも、本物を見てほしいということ」です。木名瀬さんの工夫や準備はこのような思いから出発しているのがよくわかります。

最後に、塙山小学校のよさを聞きました。塙山小学校の児童は、理科実験に興味を持つ児童がとても多いことと話していました。また、地域がとても協力的であることも特色で、地域に支えられながら、児童は元気に育っていると思いました。



「理科室のおじさん」木名瀬敦さん



準備室にはおもちゃも一杯



工夫された実験台



ホバークラフ



竹細工のおもちゃ



整理された準備室